

# 電気通信市場の環境変化に対応した接続ルールのあり方について

2009年3月16日

社団法人 テレコムサービス協会  
政策委員会

## テレサ協からの主張のポイント

### ● NGNにおけるサービスプラットフォームの開放

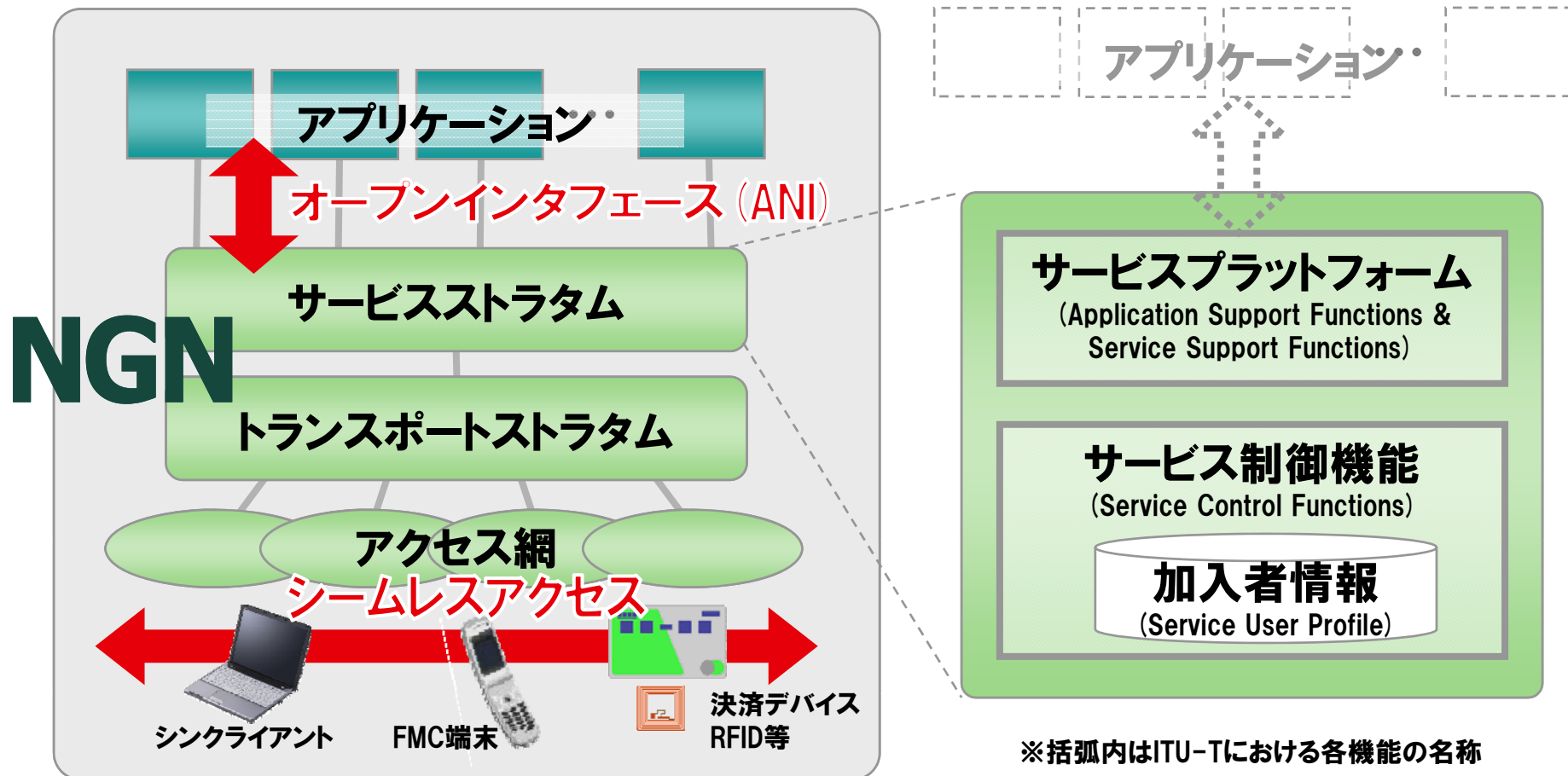
- ・現状のNGN商用サービスには、いわゆる『サービスプラットフォーム』は存在していない
- ・NGNの発展のためには、サービスプラットフォーム機能を早い時期に充実させていくことが重要である
- ・そのためには、NGN運用事業者だけでなく第3者によるサービスプラットフォーム構築を可能とし、適正な競争環境を整備する必要がある

### ● FMC時代の到来に向けた接続ルールの整備

- ・NGNの出現により、今後固定通信と移動通信が融合したサービス (FMC) が普及していくことが期待される
- ・その際には、従来議論されている移動通信網同士のローミングに加え、移動通信網と固定通信網、固定通信網同士のローミングも必要となる

## NGNの特徴である『サービスプラットフォーム』

- NGNの特徴はサービス機能と転送機能の分離
- さらに、アプリケーションとのオープンなインタフェース

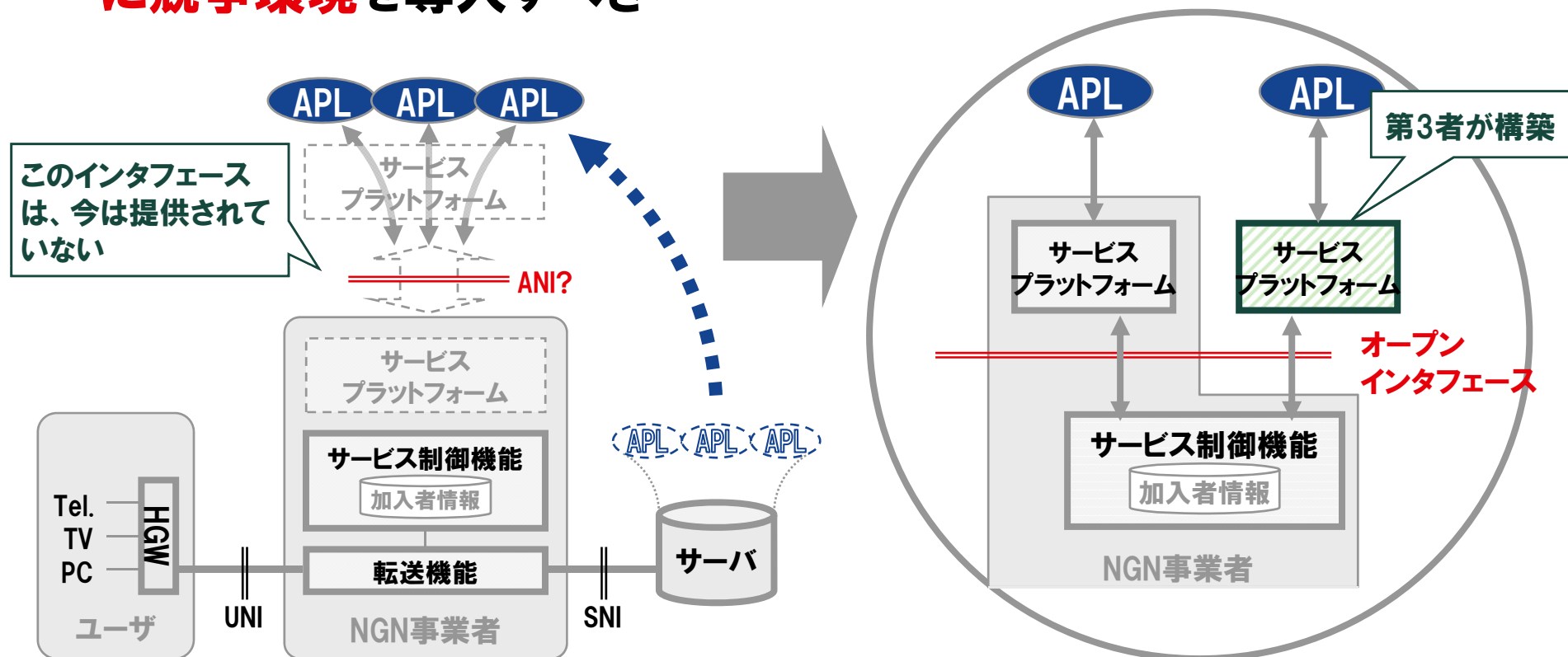


※括弧内はITU-Tにおける各機能の名称

ANI: Application-Network Interface

## 現状の「SNI」とアプリケーションのオープン化

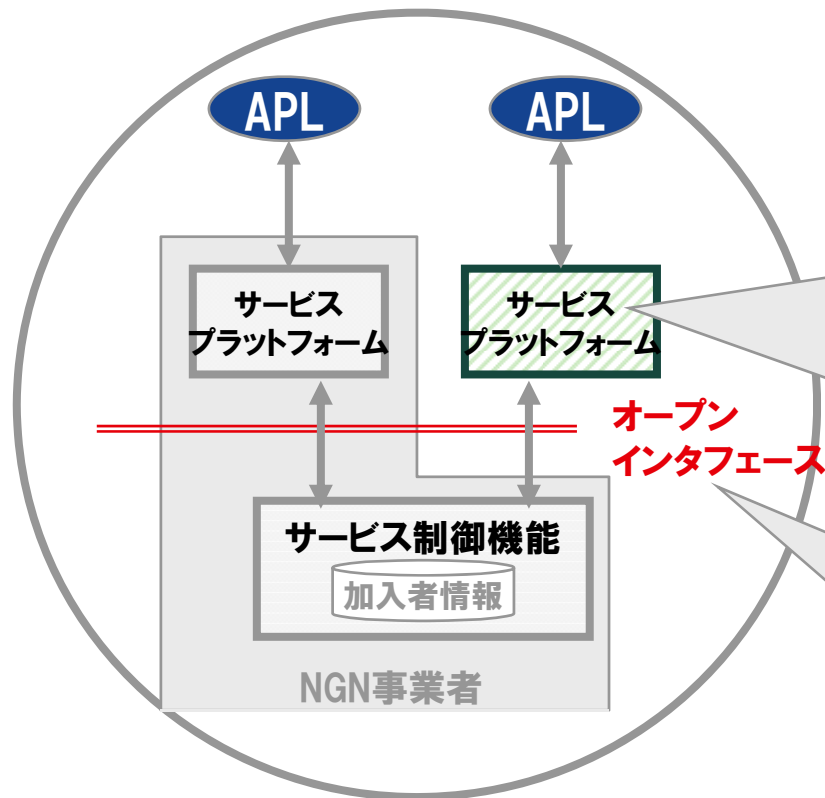
- NGN商用サービスのSNIでは、利用できるのが映像配信だけ
- 本来、アプリケーションからNGN内の情報やリソースを制御したい
- アプリケーションの利便性のためには**サービスプラットフォーム自体に競争環境を導入すべき**



SNI: Application Server-Network Interface

## プラットフォーム事業者との接続ルール

- 新たな（垂直方向の）接続形態であり、NGNが発展するためにもプラットフォーム事業者が使いやすい接続ルールを望む



### ・ サービスプラットフォームの提供者との接続条件

- NGN事業者との接続は事業者間接続の対象となるか
- 利用する機能ごとに細分化された接続料金が望ましい

### ・ NGN事業者ごとにインタフェースは統一されるのか？

- 少なくとも大半は共通とし、各社の独自部分は極力少なくする\*

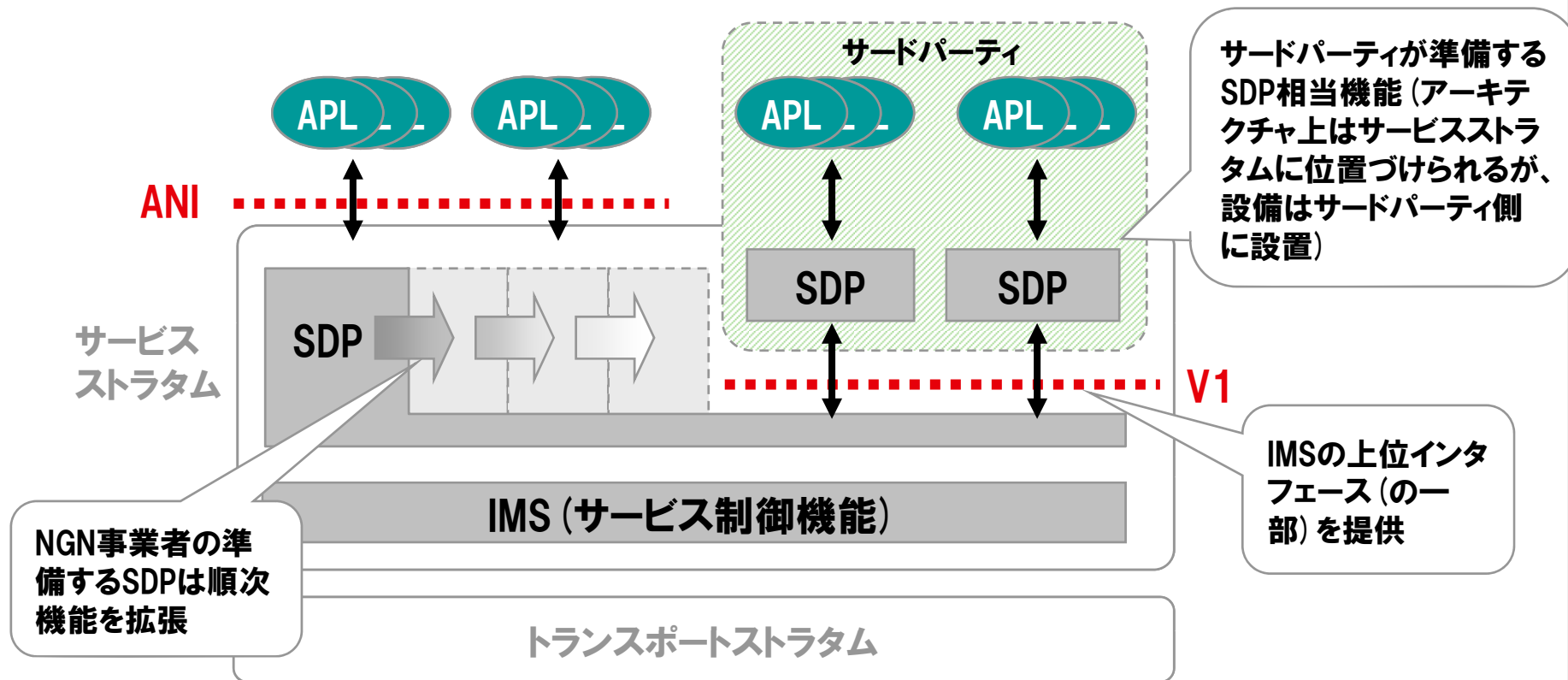
\*: ITU-Tなどの国際標準では、ISC (IMS Service Control) などが規定されているが、ANIの規格に関する議論は進んでいない

# APLインタフェースオープン化に対する基本的な考え方

## 要望事項

ANIとして、通信キャリアが準備するSDPの上位インタフェースに加えて、「V1」の提供を望む

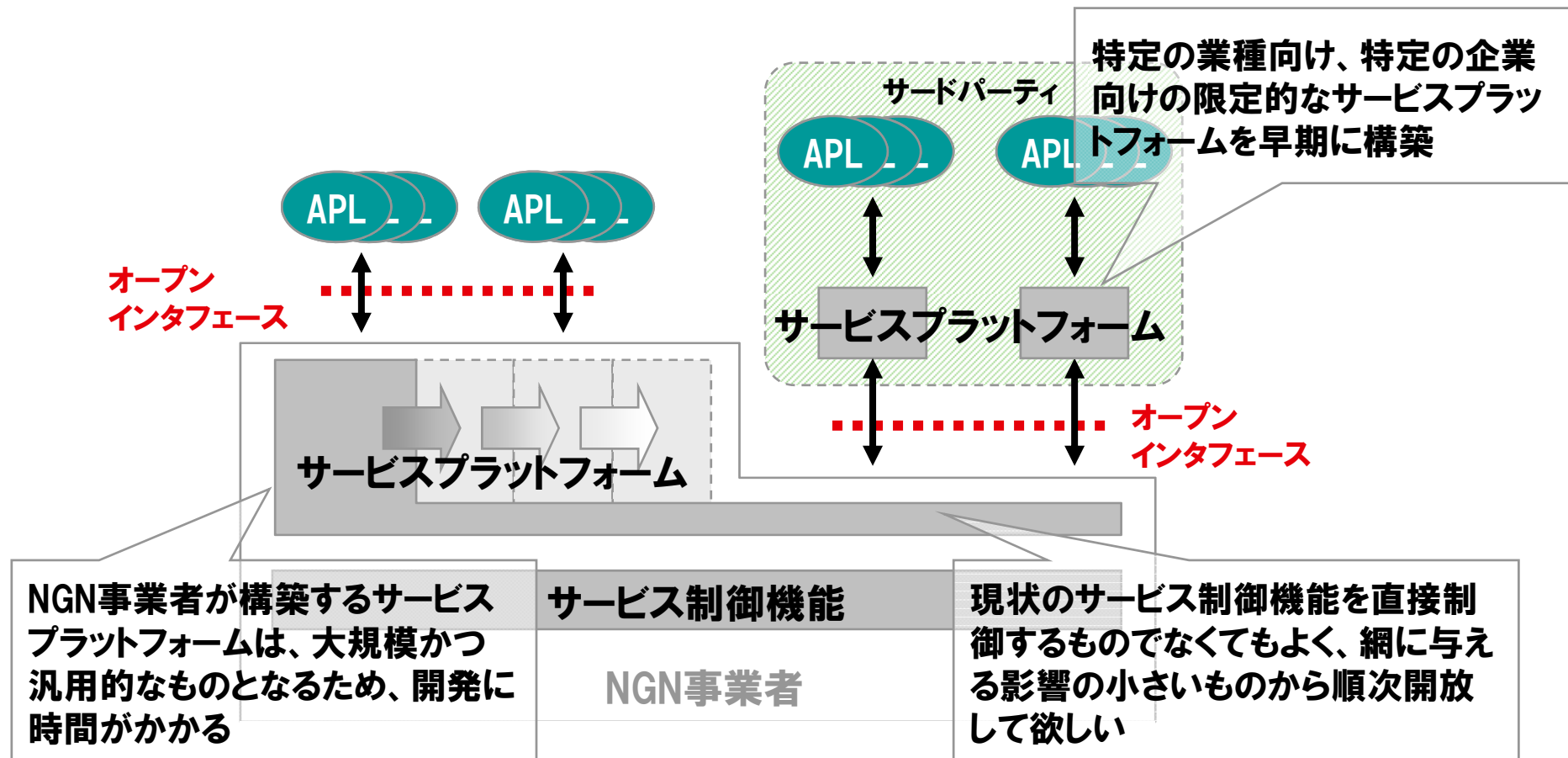
1. 「V1」はIMSの上位インタフェースを提供
2. 「V1」はグローバルなオープン標準をもとにNGN事業者間共通のインタフェース
3. NGN事業者の準備するSDPとサードパーティの準備するSDPは同じ位置付け



※SDP: Service Delivery Platform →前ページまでの「サービスプラットフォーム」に相当

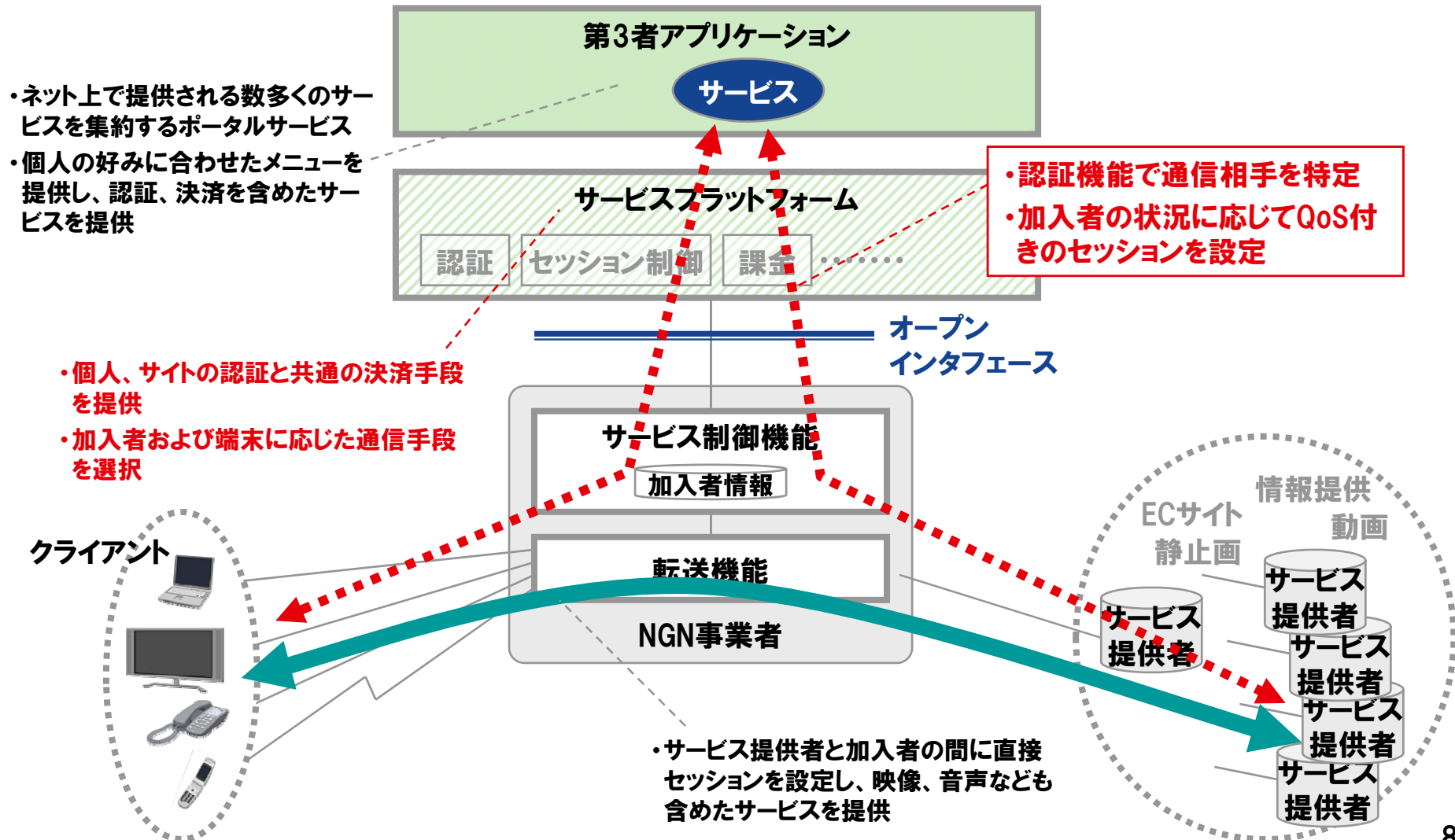
# NGNの発展のためにはオープン化が必要

- アプリケーションのオープン化はNGNの最大の特徴
- NGN発展のために、サービス提供者に使いやすい環境を!



# NGN上の第3者サービス例①

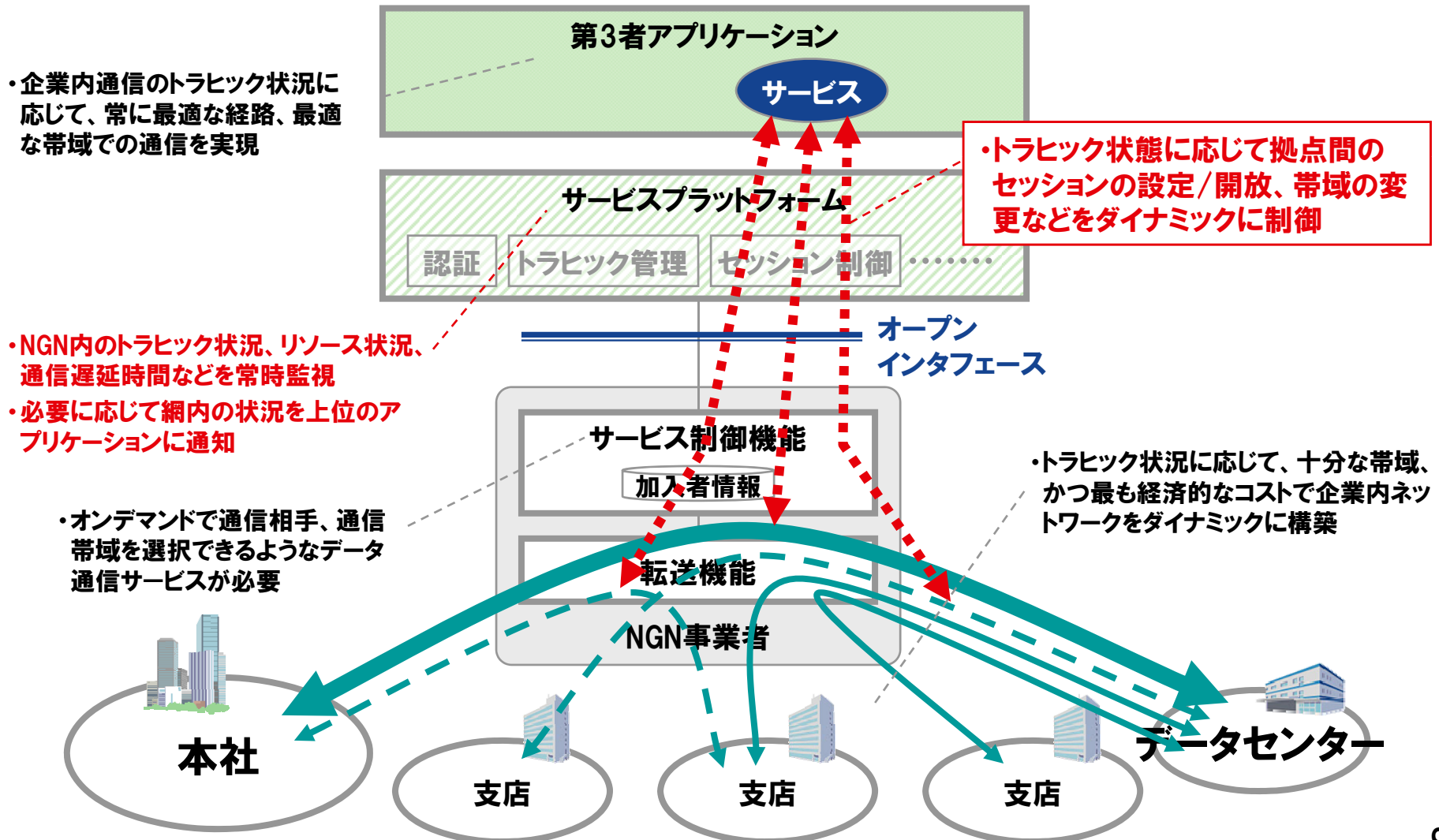
## ● マルチメディアを活用したサービス提供ポータル





## NGN上の第3者サービス例②

### ●トラフィック状況に応じた動的な企業用WANの構築



# FMC実現に向けたローミングとサービスプラットフォーム

- FMCサービスのためにはNGN間のローミングが必要
- NGN事業者とは独立したサービスプラットフォームがFMCを実現
- NGNにおけるローミングのあり方など、今後の議論が必要

